

～ガバナーメッセージ

「いのちの水を考えよう」

国際ロータリー第 2590 地区
ガバナー 湯川 孝 則



寒い日が続き、やわらかな春の日差しがうれしい季節になりました。3月は、水と衛生月間です。水は、私たちが生きるうえで欠かせない大切なものです。毎日、料理や飲み物、お風呂や洗濯などに使う水は、私たちの生活に無くてはならない大切なものであり、同時に植物を育て地球を潤します。今月は、いのちの水がどこから生まれるのか、私たち人間にとっていかに大切な物質であるかを考えてみたいと思います。

人間の体は、ほとんどが水でできています。生まれたばかりの赤ちゃんだと体重の約75%、子どもで約70%、成人の場合で約60%が水と言われています。水は、生命を維持するうえで欠かせない物質で、人間は水がないと生きていけません。中高年で多発する脳梗塞や心筋梗塞なども水分摂取量の不足が大きなリスク要因のひとつとなっています。これら脱水による健康障害や重大な事故などの予防には、こまめな水分補給が効果的です。健康のために水を飲むことは、とても大切な生活習慣なのです。その水はどうやって作られるのでしょうか。

私たちが当たり前のように使っている水は、自然からの大切な贈り物です。水源地の森林で降った雨は河川を經由して海に流れ、海の水が蒸発して雲になり、水源地の森林に再び雨を降らせます。これが地球の水循環です。この時、森は地球の浄水器の役割を果たします。つまり、森は、空から降ってきた汚い雨をきれいにする役割を果たしてくれるのです。さらに森は、植物や動物が生きるために必要な環境を創っています。

今年度、ライズリーRI会長が、世界で120万本の植樹を提唱されたのも、地球環境の持続可能性が世界の懸念材料になったか

らに他なりません。山に木を植えることにより、森の浄化作用を健全化し、きれいな水を提供できるようにすることは、とても大切なことなのです。きれいな水を守るためには、水源の森を守らなければなりません。「水」と「森」はつながっているのです。さらに、木を植えることにより、地球温暖化防止と酸素の供給ができます。私たちが未来に残すべき貴重な環境は、木を植えることによって守られるのです。

横浜の水は、道志川からも取水していますが、その割合は全体の8.8%に過ぎませんが、丹沢湖からの取水が一番多く30.9%を占め、次いで、宮ヶ瀬湖25.5%、相模湖20.1%、津久井湖14.6%となっています。こうしてみると、横浜の水は、91.2%が人造湖の水であることがわかります。夏の日照りが続いて東京や大阪で給水制限をしなければならぬ場合でも、横浜で給水制限しなくて済むのは、これらの人造湖による水の安定供給がされているからなのです。

世界に目を向けると、きれいな水が飲めないで苦しんでいる人々が沢山います。こうした人々に日本の水を供給することや現地で水をを得るためのシステムを提供することは、有意義な奉仕プロジェクトになるでしょう。

今年度、第2590地区全体で東日本大震災復興支援の一環として宮城県岩沼市の「千年希望の丘」に6千本の苗木を植えます。この丘は、10年後に命を守る森の防潮堤となり、100年から200年、いやもっと長い時間を過ごし、未来への遺産となるものです。未来の子供たちの命を守り、貴重な環境を保全するために、「ともに植えよう！」を合言葉に実践しようではありませんか。